

## そうだ、ラグビーを楽しもう。



●グラウンド 東京都港区立青山小学校 ●対象 小学生～中学生の男女 ●活動日時 原則第1日曜日以外の日曜日 10:00～12:00 \*第1日曜日は港区教育委員会「青山タグラグビー教室」を開催中 ●お問い合わせ メールアドレス: info@mrs.jp.n.com

### ラグビースクールが呼んでいる 第二回 みなとラグビースクール

\* \* \*

グラウンドに元氣よく響くホイッスル。子どもたちが躍動する。外苑前駅からほど近い都会の一角に、昨年できたばかりの真新しい人口芝がまぶしく光る。みなとラグビースクールは、二〇一〇年四月に開校。スタート時には三六人だった生徒も、立地や環境の良さが人気を呼び現在は六九人。スタッフと合わせると約一〇〇人の大所帯になった。コート陣には、元明治大学ラグビー部ヘッドコーチでスクールの校長でもある黒崎祐一さんをはじめ、地元の方から体育指導員、ラグビースクールでの指導経験者がそろっている。

練習開始と同時に、夢中で体を動かす子どもたちの姿が目に入ってくる。実に楽しそうなので、練習に参加させてもらった。

最初は（エリアゾーンアタック）。決められたエリアの内と外に人が配置され、内の人のは外の人が投げるボールをよければいい。横やうしろへの意識が重要となるラグビーならではの練習だ。

これはなかなか難しいゾ。まずい、明らかに狙われている。四方八方からボー

ルが飛んできた。一分間逃げ切れればいいのだが、三〇秒もしないうちにアウト。投げる子も逃げる子も笑顔笑顔。

次はタックルの練習。みんな真剣な表情でコートへ向かっていく。これまでの練習とは顔つきが変わる。うまく体を使えない子が多いと見て、コートから「相撲をとるように」と指示が飛ぶ。正面から体をぶつける、ということ子どもたちにはわかりやすく伝える。一つひとつ丁寧に教えるコーチ陣の姿が印象的だ。

最後のリレーは、ボールを持ったまま、いろんな動作を加えて走る。芝生の上を裸足で走るのは気持ちがいい。

「ラグビーを楽しむ」

練習後に黒崎校長の口から何度も出てきた言葉。その想いを形にするために、ラグビー以外の練習メニューを取り入れるなどの試行錯誤を重ねている。

「今後はみなとラグビースクールをもっと多くの方にも知ってもらうため、地域の活動などに積極的に参加したいです。そして、『ラグビーをやっている子どもは礼儀がいい』と言われるようになりたいです」

と、話すのはスクール代表の七戸淳さん。みなとラグビースクールには、勝ち負けよりも大切なものがちゃんとある。■